



## ■ 成果指標

指標	単位	現状値		実績値				目標値
				R4	R5	R6	R7	
1 観光入込客数	人	183,001	R2	207,428	213,712			220,000
2 エコツーリズムのイベント参加者数	人	141	R2	98	118			270
3 観光協会ホームページ訪問者数	人	181,722	R2	224,617	248,438			235,000
4 まちづくり観光に関わる団体数	団体	84	R2	75	74			85
5								
6								
7								
8								

## ■ 市民アンケート調査

項目	現状値 [R2]	1次 [R5]	2次 [R6]	市民アンケートの考察
1 観光地としての魅力があり、観光施設が整っている	重要度 0.77 満足度 ▲0.91	0.87 ▲0.73		市民からみた観光地としての魅力、観光施設の充実の重要度はやや高いが、満足度は低い結果となっている。観光プロモーションにより魅力向上の取り組みを市外向けには行っているが、市民に対してその取り組みの認知度が低いと推察される。
2	重要度 満足度			
3	重要度 満足度			
4	重要度 満足度			

## ■ 施策推進 [施策の方向]

施策の方向	施策推進に関する考察
① 地域資源を生かした持続可能な観光政策の推進	亀山7座でのトレッキングイベントにより、市内の自然観光の認知度は高まってきた。今後、石水溪キャンプ場施設等を活用した亀山版グリーンツーリズムにつなげていく。
② 観光プロモーションの強化	「アートが生まれる街、亀山」をコンセプトに、2年目のテーマ「灯」を中心に活動を展開した。今後も作成した観光PR動画を活用し、引き続き持続可能な観光施策を推進する。
③ まちづくり観光を支える人材と組織の育成・確保	きめ細かな情報発信や各種イベントの実施など観光協会の運営を支援するとともに、市内観光地の活性化を図るため、新設の観光DMOと連携協定を締結した。
④ 快適に滞在できる受け入れ環境の充実	適切な観光施設の運営、管理を行う中で、石水溪キャンプ場施設においては年間を通じての利用を可能とするなど、来訪者がより便利に滞在できる環境を整えることができた。
⑤	
⑥	
⑦	

## 総合評価

地域資源を生かした持続可能な観光政策の推進については、亀山7座でのトレッキングイベントを毎月開催し、市内の自然観光の認知度を高めることができた。観光プロモーションの強化については、亀山市観光協会や新たに連携協定を締結したDMOカメヤマモデルなどと連携して、第2次亀山市観光振興ビジョンの3つの基本戦略と11の施策に基づいて取り組みを行った。本ビジョンの基本戦略の一つである情報発信のクオリティアップでは、昨年度に続いて「アートが生まれる街、亀山」をコンセプトに、ターゲットを関心層から低関心層まで拡大し、インフルエンサーや雑誌、ポスターなどを活用して、市内外へ情報発信を行うとともに、新たに観光用PR動画を作成した。この観光プロモーション活動の中で、2年目のテーマである「灯」にまつわるカメヤマローソクや灯おどりを中心に発信するするなど、地域資源を生かした持続可能な観光施策の推進に向けて、順調に進めることができた。また、コロナ禍の中で活動が制限されたことにより、まちづくり観光に関わる団体が減少したが、4年ぶりの開催となった納涼大会や関宿祇園夏まつり、街道まつりなど、コロナ禍前のにぎわいが戻ってきており、灯おどり保存会の復活などまちづくり観光を支える人材と組織の育成・確保にもつながっていくと考える。快適に滞在できる受け入れ環境の充実については、民間の経験やノウハウも活用しながら適切な観光施設の運営、管理を行うとともに、石水溪キャンプ場施設においては、冬場のキャンピングニーズに対応するため、1年を通して利用が可能となるよう環境を整えた。全体としては、成果指標のまちづくり観光を支える関係団体は減少しているものの、観光入込客数やエコツーリズムのイベント参加者数は増加していることから、基本施策の目指す姿に向けては、まずまず進んだと考える。

# B

まずまず進んだ

## 今後の展開方針

観光プロモーションのコンセプトと年度ごとのテーマである「学」に沿って、これまでに作成したWEBサイトや動画、ポスターなどを活用して、引き続きPRを行う。また、市の魅力を発信するだけでなく、本市への観光誘客につなげるため、新たな観光資源の発掘や体験型観光コンテンツを造成し、それらを効果的に発信していく。観光コンテンツの作成にあたっては、民間のノウハウや知見を生かせる国の地域活性化起業者制度を活用し、亀山7座やキャンプ場施設などを活用した自然を体験できる亀山版グリーンツーリズムの取り組みも併せて検討する。一方、まちづくり観光を推進するため、関係団体の増加や観光協会の経営強化に結びつくよう、各種イベントや関宿にぎわいづくりなどを通じて継続した支援を行っていく。